

令和元年6月11日

富山干柿出荷連合会 殿



ご依頼のありました、「富山干柿」の当市場における評価については次のとおりです。

1. 富山県・石川県は関西圏であり、両県の出身者も多く、雷鳥が明示された箱に入った「富山干柿」は、馴染み深いものであり、根強い人気を維持している。
2. 「三社柿」を原料柿としている「富山干柿」は、1個あたり60g～100gと他産地の干柿に比べて圧倒的に大きく（他産地は大きくて30g）、贈答用としても自家消費用としても売れ筋商品である。
3. 中国地方の「西条柿」や、関西地方の「富有柿」は、渋抜きをした生柿や乾燥を抑えた「あんぼ柿」としての流通も多く、干柿としては小粒であり、干柿では、「富山干柿」が優位である。
4. 「西条柿」や「富有柿」は、全国で栽培されており、品種だけでは産地が限定できないが、「三社柿」は富山県南西部しか生育出来ないと聞いており、その「三社柿」を材料柿とした「富山干柿」も全国で唯一のブランド柿として認知されている。従って販売戦略が非常に立てやすく、基本的に売れ残ることはない。
5. 近年は、東南アジア諸国でも人気が高く、輸出商品としての引き合いが多い。個別包装されており、賞味期限も長いことから更なる需要が見込まれている。
6. 当市場としては現状より20万個程度は更なる販売が可能と考えているが、年々取扱量が減少傾向にあり、生産者数の維持や協業化等の推進により、増産を期待している。
7. 関西圏は、自家消費用の干柿需要も多いことから、高品質の贈答用と自家消費用の低価格帯商品の両面での販売を考えているのでご配慮願いたい。

以上

令和元年6月10日

富山干柿出荷連合会 殿

東京青果株式会社 村本 秀明



## 「富山干柿」の当市場における評価について

ご依頼のありました件について、下記のとおりご報告します。

### 記

東京都中央卸売市場のこの十年間の干柿取扱数量は、1,500 tから 1,350 t 前後と約 10%減少しているが、販売金額は横ばいとなっている。これはkg単価が 1,400 円から 1,600 円に上昇していることに起因しており、今後も引き続き、「干柿」に対する消費者需要が見込まれると判断している。

県別では、長野県が第 1 位で約 400 t、福島県が第 2 位で約 380 t、富山干柿は第 5 位で約 70 t の取扱となっているが、富山干柿のkg単価はここ数年 2,000 円台をキープしており単価的には、長野県・福島県を抜いて最も高い価格を維持していることは特筆すべき点である。

これは、富山干柿の原料品種が、富山県固有の「三社柿」で、他産地の「市田柿」や「西条柿」に比べて、大玉であり（富山干柿：60 g 前後）、他産地（市田柿 25 g 前後）に比べて、贈答品（お歳暮商品）として需要が高いことが理由と考えている。糖度についても 18%前後と他産地の干柿と変わりはない。

最後に、当市場では、他産地が真似ることが出来ない「大玉の富山干柿」の高価格販売先を、百貨店・デパート等と捉えており、更なる品質の向上（均一化）と増産（30 t 増）を期待するものである。

以上